８：喉頭真菌症が咳嗽の原因と考えられた気管支喘息症例

〇渡部　浩（広島市立安佐市民病院　耳鼻咽喉科）

喉頭真菌症はまれな疾患である。一方現在、ステロイド吸入剤が気管支喘息の標準治療として使用されており、咽頭培養におけるカンジダの検出率が約３割との報告がある。喉頭真菌症では病変が声帯に存在しかつある程度のボリュームがないと嗄声などの症状が出現しないため見過ごされている可能性も考えられる。

症例１は中国労災病院内科に気管支喘息にて通院中に、咽頭に白苔を認めるとのことで当科紹介された。両側声帯にも白苔を認め、咽頭培養にてカンジダが陽性であった。カンジダに対する RAST が陽性であった。イトリゾール投与にて声帯の白苔が消失するとともに咳嗽の改善がみられた。

症例２は中国労災病院内科に気管支喘息にて通院中に、嗄声を認めるため当科を紹介された。声帯に白苔を認め、咽頭の培養を行ったが、カンジダ陰性であった。当初、セフェム系薬剤の投与で経過をみたが改善がみられないため、イトリゾールを投与したところ白苔消失とともに咳嗽の改善がみられた。本例はカンジダに対する RAST は陰性であったがリンパ球刺激試験で高値を認めた。

文献的に喉頭真菌症の症状としては、初期は嗄声であり進行すると嚥下痛、嚥下障害を生ずるが咳嗽の記載はあまり見られない。今回の２症例はカンジダに対して何らかの過敏性を有しており免疫学的機序により咳嗽を生じた可能性が考えられる。